

N52c 岡山天体物理観測所写真乾板アーカイブ

柳澤顕史 (国立天文台・岡山)、市村櫻子 (東大情報基盤センター)、伊木広子、原田直子、渡邊悦二、乗本祐慈、国光昌子、岡田隆史、泉浦秀行、吉田道利 (国立天文台・岡山)

岡山天体物理観測所では、当観測所で取得された2万枚余りの写真乾板のアーカイブをすすめている。これは、データの管理はそれを生み出した観測所が一括して行うべきとの認識も一つの動機であるが、それ以上に我々が写真乾板のもつ潜在的な可能性に注目していることも大きい。確かに、写真乾板は現代の固体撮像素子と比較して感度、精度ともに劣る。しかし、固体撮像素子といえども、乾板が利用された数十年前の天体の姿を記録することはできない。これまで、天体の変動現象の研究は、研究者個人の研究ライフの時間内に取得されたものにより行われたものが多いが、写真乾板のデータを利用すれば時間軸を延長することが可能で、天体の周期的変化や永年変化の研究を拡張することが可能である。このような研究に写真乾板を利用するためには、観測の記録と較正用データが残されている必要があるが、岡山観測所の写真乾板の観測記録は、当時の観測者により野帳に詳細に残されているし、チューブセンシトメータによる較正用データは、クーデ分光乾板については、その8割余りについて残されている。

アーカイブ計画は2001年9月より開始し、今日までに帯出された写真乾板の8割余りを回収した。現在は、写真乾板をISO 3897規格に準じて作成した専用紙箱に収納する作業と、野帳に記録されたデータをコンピュータに入力する作業を併行させて進めている。今後はこれらの写真乾板をスキャンしてFITS化しデータベースとして公開したいと考えている。